

第1章

三人寄れば文殊の知恵



ソーシャル電子工作の世界

● 電子工作ブーム到来！

今、電子工作がブームであることをみなさん知っていますか？これまでに、1940年代頃から何度かあった電子工作ブーム。インターネットがあたりまえのように身の回りには、それを活用した電子工作がブームのきっかけとなっています。

インターネットを活用すると情報の共有と検索、それらを応用したコミュニケーションがスムーズに行えることはみなさん体験していると思います。何かわからないことがあるときはインターネットでキーワード検索し、情報が載っているウェブ・ページで調べることができます。

しかし、それだけではありません。

例えば、自分でウェブ・ページやブログなどに自分で作ったモノを載せることで自分から情報を発信することができます。YouTubeやニコニコ動画などの動画配信サービスを使えば、動画でも配信できます。そこには必ずといってよいほど投稿者に対して返信できる欄があり、自分で載せた情報に対する感想やアドバイスなどの返信を受け取ることで、インタラクティブなコミュニケーションもできるようになっています(写真1)。

インターネットの活用性はこれだけではありません。インターネット上のサービスの一つでUSTREAMというライブ動画配信のサービスが

あるのを知っていますか？テレビの生中継のようにリアルタイムで動画を配信できるサービスですが、テレビと違うのはコメントもリアルタイムで読み書きできることです。

その機能はつぶやきサービスであるTwitterやソーシャル・サービスと連携していて、「コメント=つぶやき」となります。ここにはかなりの利点があり、その流れを図にすると図1のようになります。

以前、電子工作を始めた中学生と小学生の兄弟がそのようすをライブ中継していたところ、夜中にもかかわらず50人以上のビューワが集まり、観ている人に教わりながら電子工作を楽しんでい



写真1 ニコニコ動画による動画配信のようす
動画の中にコメントが書き込める。

図1
USTREAMでの動画
配信と人が集まる流れ
人知れず配信を始めても
ビューワが集まる。

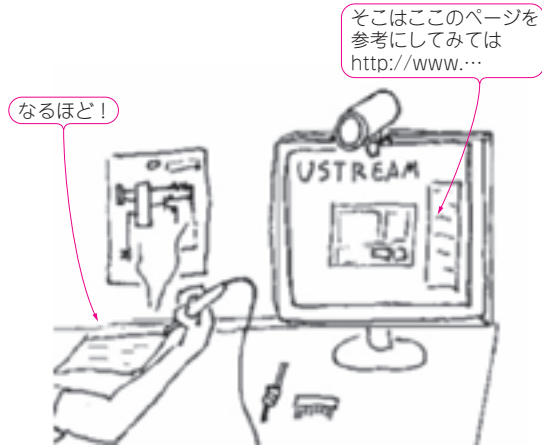
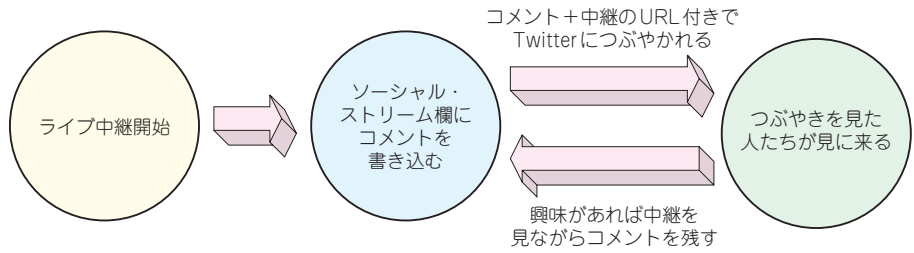


図2 教える人が集まる「逆電子工作教室」

たことがありました。このことはすごく画期的で新たな楽しみ方の一つだと思いました。それ以来、同じような中継を行う人を見かけるようになり、一部では教わる人が集まるのではなく、教える人が集まることから、逆電子工作教室と呼ばれているようです(図2)。

そして、コミュニケーションの場はインターネット上だけではなく、インターネットからリアルにつながる場として、最近では電子工作に関するコミュニケーション・スペースがオープンしています。その中の二つを紹介します。



図3 「はんだづけカフェ」の公式サイト(<http://handazukecafe.com/>)
24時間、中のようなすが中継されている。